

H I C 研修部 通信

Vol. 128
April 2026
Hiroshima
International
Center



ひろしま国際センター研修部では、広島県とJICA(独立行政法人国際協力機構)が共同設置した「ひろしま国際プラザ」において、広島県やJICAを始め、企業、海外大学、自治体からの様々な研修を実施するほか、研修員と地域の皆様との交流事業を行っています。ここでは、そのプログラムの一部をご紹介します。

会報誌一覧は
こちらから



その1 2025年度 JICA日系社会研修 「日本の食文化(お好み焼き)の継承による日系社会の活性化」

JICA日系社会研修は、海外の研修員が日本の文化や技術を学び、現地の日系社会でリーダーシップを発揮することを目的に実施されています。この研修は、JICA中国からの委託を受け、オタフクソース株式会社にご協力いただいて、10月14日(火)～10月31日(金)の期間で実施しました。ブラジルからの研修員が、日本で継承されているお好み焼きの作り方、魅力や文化的背景、接客や衛生管理、効率的に大量に作る方法などについて学び、イベント会場での実践も経験しました。

ブラジルでの日本祭などのイベントにおいて本研修を通じて得た学びを活かし、今後の日系社会の発展に寄与することを期待しています。



その2 広島県海外日本語教師養成研修

本研修は広島県からの委託を受けて、インドネシアから3名、ベトナムから3名の日本語教師を広島へ招へいし、日本語教授法や日本語運用能力の向上、広島県の留学環境の理解促進を目的として実施しました。研修員は10月下旬から12月中旬までの約2か月間にわたり、授業改善等に関する講義を受けたり、留学促進の

授業では県内大学を訪問して意見交換したり、外国籍の従業員が働いている地元企業を見学したりしました。本研修で得られた学びと交流が、今後日本語教育の発展や、広島県と各国との連携強化に寄与することを願っています。



その3 大韓民国・富川大学校 2025年度 日本 冬季 海外語学研修

2026年1月7日(水)～21日(水)の2週間、昨年度に続いて富川大学校の学生たちが来てくれました。今年の研修には10名の研修員が参加し、日本語の授業に加え、実際に「使う日本語」を意識しながら、日々のコミュニケーションにも積極的に取り組みました。

また、広島平和記念公園や宮島を訪問し、お好み焼き作りや華道・茶道などにも挑戦するなど、広島の魅力に触れたり、日本の食文化や伝統文化を実際に体験したりする、非常に充実した研修となりました。





その4 フィリピン高校生日本文化体験研修

12月3日（水）～8日（月）の6日間、フィリピンにあるドン・ボスコ・マカティ工科大学附属高校の高校生30名と引率者5名が本研修に参加しました。

広島平和記念資料館・公園や宮島の訪問、茶道・書道・着付けの日本文化体験に加え、広島県立総合技術高校と西条農業高校では日本の生徒たちと交流し、活気ある学びの場となりました。

また、広島大学のキャンパスツアーでは「進路の選択肢になった」などの声が寄せられ、日本への関心が深まる研修となりました。



その5 JICA留学生と話すHIROSHIMA PEACE TALK カメルーン編

紛争経験国出身のJICA留学生に自国の紛争経験について発表してもらい、一般参加者と平和について話し合うPEACE TALKを、

11月29日（土）に福山市で開催しました。今回は、カメルーン出身のノノさんが、自国の英語圏危機について発表してくれました。「世界で最も無視される危機」と言われるこの危機は、少数派の英語圏地域の人々が、多数派のフランス語圏優位の政府の弾圧を受け、内戦にまで発展したものです。ノノさんはその歴史や経緯を分かりやすく説明、参加者からは「知らずに過ごしていたことに気付いて

良かった」「直接話を聞けて、カメルーンに対するバイアスが外れた気がする」等のコメントが寄せられました。



その6 外国人防災キーパーソン育成事業

外国人コミュニティ内で、防災の中心的役割を果たす外国人市民を発掘、育成することを目的として、東広島市からの委託を受けて、9月27日（土）と10月18日（土）の2日間、この講座を開催し、10か国17名の外国人が参加しました。1日目は地域住民と一緒に避難誘導やバケツリレー、AEDを体験、2日目は日本で起こる災害について学びました。地震や水害がほとんどない国もあります。災害が起こったとき、また起こる前にどうすればよいか真剣に聞いていました。ワークショップでは外国人への効果的な防災情報提供方法について意見を出し合いました。「来年もあればぜひ参加したい」「消防団について情報がほしい」などのコメントがあり、関心の高さが伺えました。



「グローバルリレーションズ・プログラム (GRP)」参加者の声

シャンタル・シェマイア・ウィットリー

HIC article: Chantal-Shemaiah A.D. Whitleyさん(ジャマイカ)

I am Chantal-Shemaiah Whitley, popularly called Whitley-san. I hail from the vibrant island of Jamaica. I arrived in Japan in September of 2023 where I first came in contact with HIP as a new JICA scholar. I departed for my apartment, yearning for the warmth and myriad possibilities that HIP promises. Six months later, I returned as a GRP resident, having devoted my days to personal growth, exploring new phenomena, and immersing myself in the quintessential Japanese experience. My tenure at HIP has been an extraordinary journey, one that I will eagerly recount upon my return home. I have emerged as a more refined individual, for which I am profoundly grateful. Living away from home can often be daunting and disheartening; however, thanks to the dedicated staff and fellow GRP members at HIP, I found joy in laughter, forged new friendships, and ventured into novel activities. Most importantly, I have evolved as an individual. The 2023 version of myself feels transformed, as a new identity has taken shape, all thanks to my time at HIP. The warm smiles and engaging conversations with the staff have provided solace during moments of overwhelm, while the camaraderie among fellow GRP

members has undeniably contributed to my personal development.

Residing at HIP has been the social pinnacle of my sojourn in Japan. From cultural exchanges (world cooking, calligraphy, ikebana, and origami classes, sake matsuri etc.) to school visits (Mochitsuki festival, undoukai), I have relished the opportunity not only to share my own heritage but also to delve into the rich tapestry of Japanese culture. This rewarding experience has profoundly influenced my worldview and my perceptions of those who inhabit it.

I would like to express my profound gratitude for affording me the opportunity to partake in the GRP. Each activity has proven to be invaluable. I also wish to extend my heartfelt thanks to JICA for granting me the privilege to study in Japan. Without JICA, I would not have the pleasure of recounting the remarkable experiences I cherished at HIP. To my esteemed GRP colleagues, our time together may have reached its conclusion; however, the memories, laughter, and joy we shared will forever reside in my heart. I will carry you with me wherever I go. Finally, to the wonderful HIP staff, I extend my heartfelt gratitude; you rendered my stay truly exceptional.



グローバルリレーションズ・プログラム (GRP) とは?

ひろしま国際プラザに入居して大学に通いながら、国際社会で活躍できる「実践力」を身につけることを目的とした、外国人留学生のためのプログラムです。現在、9ヶ国19名の留学生が参加しています。

そのほか、レジデントアシスタントの日本人学生2名が入居し、彼らを支援しています。

★入居使用料

1泊1,000円 管理費3,500円/月
月額31,500円~34,500円(水道光熱費込み)

★毎年、春と秋に入居者を募集しています。募集の際には「ひろしま国際プラザ」のHPに掲載します。

外国人相談窓口のご案内

外国籍県民が安心して生活し、活躍できる多文化共生社会を実現するため、多言語で対応できる外国人のための相談窓口を開設しています。 **フリーダイヤル 0120-783-806**
(通話料無料) 相談は対面、電話、オンラインで行います。

対応言語

英語、韓国語、中国語、タガログ語、ベトナム語、ネパール語、インドネシア語、タイ語、ポルトガル語、スペイン語、ロシア語、ウクライナ語

一般相談 (暮らしに関すること)

月~金曜日 10時~19時
土曜日 9時30分~18時

専門相談 (在留資格・社会保険・労働・法律問題など)

木曜日・土曜日 10時~16時
(法律問題は土曜日のみ)

祝日、
12/28~1/4を除く

皆様の温かいご支援をお待ちしております

会費・寄附について



メンバーシップについて (HP)



奨学金について (HP)

*公益財団法人への寄附については、税制上の特例措置を受けることができます。

HICのSNSでは様々な情報を配信中!!



Facebook (交流部)



Facebook (留学生支援センター)



Facebook (研修部)



Instagram (交流部)



Instagram (留学生支援センター)



Instagram (研修部)

交流部&留生活活躍支援センター

〒730-0037 広島市中区中町8-18 広島クリスタルプラザ6F
TEL.(082)541-3777 FAX.(082)243-2001
E-mail/hic@hiroshima-ic.or.jp

■開館時間

月~金 10:00~19:00 土 9:30~18:00
日・祝日および年末年始(12/28~1/4)はお休みです。



研修部 (ひろしま国際プラザ)

〒739-0046 東広島市鏡山三丁目3-1 ひろしま国際プラザ内
TEL.(082)421-5900 FAX.(082)421-5751
E-mail/hicc@hiroshima-ic.or.jp

■開館時間 [情報センター・図書室]

月~金 10:30~12:30, 13:30~19:00
土・祝日 10:30~19:00

*日曜および年末年始 (12/29~1/3)はお休みです。
*その他、臨時休室の場合は、HPで随時お知らせします。

